

# カリキュラム

(A)バックオフィス	<b>クラウドを活用した情報共有能力の拡充</b>
クラウド・IoT導入	

コースのねらい	部門や拠点間の情報共有・調整コストの軽減をめざして、クラウドの技術概要や活用事例、活用検討にあたってのポイントを理解し、クラウドを活用した自社業務における情報共有の課題解決に繋げるための能力を習得する。
---------	---

講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)
	1	情報共有方法とクラウドの活用	<p>(1)DXと情報共有の必要性 昨今話題になっているDXの概要とその事例、情報共有方法の現状と課題、従来の働き方と今後求められる働き方(業務効率化による生産性向上)について解説します。</p> <p>(2)クラウドサービスとその活用事例 クラウドサービスとは何か、身近にあるクラウドサービスを例にその概要を解説します。SaaS、PaaS、IaaSといったクラウドサービスの階層と、ビジネスで利用される主要なクラウドサービスについて、活用事例とともに解説します。</p> <p>(3)オンプレミスとクラウドサービスの違い オンプレミス(既存の社内システム)とクラウドサービスの違いについて、利用方法、運用管理方法、セキュリティ、コスト(ライセンス)の4つの面から解説します。</p> <p>(4)クラウドサービスを活用したDX推進のモデル クラウドサービスを活用したDX推進のモデルについて解説します。メール、スケジュール管理、ファイル管理、コミュニケーション・コラボレーション、生産性向上ツール、情報セキュリティという社内の情報基盤の在り方について解説します。</p>
2	クラウドを活用した情報共有能力の拡充	<p>(1)クラウド活用のビジョンと戦略策定【演習あり】 そもそも、クラウドを活用してどのような状態を目指したいのか?を参加者全員でブレインストーミングします。ビジョンマップというワークシートを活用して、自社の3年後の望ましい状態(ビジョン)を可視化し、どのような場面でクラウドを活用するのかを共有します。 そのビジョンを達成するためのクラウドツール活用戦略を検討し、ネットワーク環境、端末環境、ファイル管理、コミュニケーションの具体的な運用方法、各種既定・ルール系の見直しなど、今後の自社業務を俯瞰して検討すべき項目を明らかにします。</p> <p>(2)クラウドを活用した情報共有体験【演習あり】 メールシステム、クラウドストレージ、コラボレーションツール等を活用して、いつでも・どこでも・どのデバイスからも情報を共有できることをデモンストレーションと操作体験で学習します。</p>	3.0
合計時間			6.0

カリキュラム作成のポイント
クラウドとは何かという基本から、実際の活用事例、デモ用のクラウド環境を利用したグループワークを盛り込むことで、知識の習得のみならず、具体的な活用イメージを醸成し、すぐに自社でも取り組めるように工夫している。

講師から一言
クラウドとは何か、どのようなメリットや課題があるのかについて解説するとともに、クラウドを活用して情報共有能力を高める方法やビジョンと戦略の策定方法についてワークショップ形式で紹介します。このセミナーを通して、クラウドの有効な活用方法を理解していただき、自社の情報共有能力を拡充することができるようになることを目指しています。